



市内5小学校の3～4年生が参加

マダイの稚魚2500匹放流

「魚の寿命はどのくらい」
「標識をつけたマダイが20年後に捕獲されたこともある」などと質問し、今井さんがわかりやすく解説した。

「声をかけました」、川名汰一君（三崎小学校）は「初めての放流で、楽しかった」などと笑顔で答えていた。

小網代パール隊は小網代の海を舞台に地域と一緒に環境を学びながら守っていくことを目標にしている。

真珠の養殖、稚魚放流、アマモの再生を通してみんなが海を知ったり、楽しんだりする機会を提供している。

みうら学・海洋教育研究所とNPO法人小網代パール海育隊（通称・小パール隊、出口浩代表）は、13日小網代湾でマダイの稚魚約2500匹を放流した。参加したのは三崎、岬陽、剣崎、名向、旭各小学校の3～4年生約160人。

放流された稚魚は体長5～6センチで、神奈川県栽培漁業協会が今年6月前後から育てたもの。午前中、三崎、岬陽、剣崎の各小学校、午後から名向、旭両小学校の児童たちが放流した。稚魚は小さなバケツに分けられた後、滑り台のような器材を使って湾内に放流された。この器材の上には海水が流され、魚が傷つかないように工夫されている。

放流の後、即席の海洋教育ミニ講座が開かれ、同協会専務理事で元県水産技術センター所長を務めた今井さんが臨時講師を務めた。児童たちからは「魚はなぜ海にいるのか」「放流した

